

### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### (1) 中心市街地活性化の目標

高崎駅は、上越新幹線と北陸新幹線が停車する駅で、日々約 3.1 万人の乗車人員が利用し、東京駅から約 100 km の距離を新幹線でわずか約 50 分で結んでいます。この駅は本県の玄関口だけでなく、首都圏と上越・北陸方面をつなぐ広域交通ターミナルとしての役割を果たしています。

このような大きな地域ポテンシャルを持つ高崎駅周辺では、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、G メッセ群馬等の、広域圏から交流人口を呼び込む新たな都市集客施設が整備されており、新たな都市発展を続けています。

このような近年の動向を踏まえ、第 3 期での基本理念を継承し中心市街地活性化の戦略目標と目指すべき目標像を以下のように設定します。

#### 【戦略目標】

高崎駅周辺における都市集客施設の整備やイベントの実施を通じて、地域の活性化と賑わいを創出し、その効果を中心市街地全体に波及させる。

#### 【基本理念】

高崎の活力と新しい文化を創造・発信する

『賑わい・交流・文化都心』

#### (2) 計画期間の考え方

計画期間は令和 7 年 4 月から、主要な事業の実施とその効果の発見が見込まれる令和 12 年 3 月までの 5 年間とし、その最終年度である令和 11 年度を目標年次とします。

#### (3) 目標指標の設定の考え方

3 つの目標に対して、以下に掲げる指標を目標指標として設定します。

| 基本方針                          | 目 標                           | 目標指標               |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------|
| 1. 都市集客施設の整備等による、市内外からの来訪者の誘引 | 1. 来訪者で賑わう集客拠点ゾーンの形成          | 1. 都市集客施設の利用者数の合計値 |
| 2. 中心市街地における来訪者の回遊促進          | 2. 市民や来訪者が楽しく回遊できる中心市街地の形成    | 2. 歩行者・自転車通行量(休日)  |
| 3. まちなか居住の誘導・促進               | 3. 快適・便利なまちなか居住が享受できる中心市街地の形成 | 3. 区域内居住人口         |

## ◎目標指標 1 都市集客施設の利用者数の合計値

第3期基本計画から「都市集客施設の整備等による市内外からの来訪者の誘引」を基本方針としており、第3期基本計画において目標数値を達成できなかった指標ですが引き続き目標指標として「都市集客施設の利用者数の合計値」を用います。

### 【計測方法】

調査方法：中心市街地の都市集客施設（群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館、高崎市タワー美術館、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ群馬、高崎市東町市民活動センター、高崎駅東口栄町地区市街地再開発整備の9施設）の年間利用者数を用いる。

調査日：翌年度4月に調査

調査主体：高崎市

## ◎目標指標 2 歩行者・自転車通行量（休日）

第3期基本計画において目標数値を達成できなかった指標ですが、中心商店街周辺では減少傾向が続いていることから、第4期基本計画において、都市集客施設等の開館後のイベント開催や回遊性の向上を図る事業の効果を検証するため、引き続き「歩行者・自転車通行量（休日）」を目標指標として用います。

### 【計測方法】

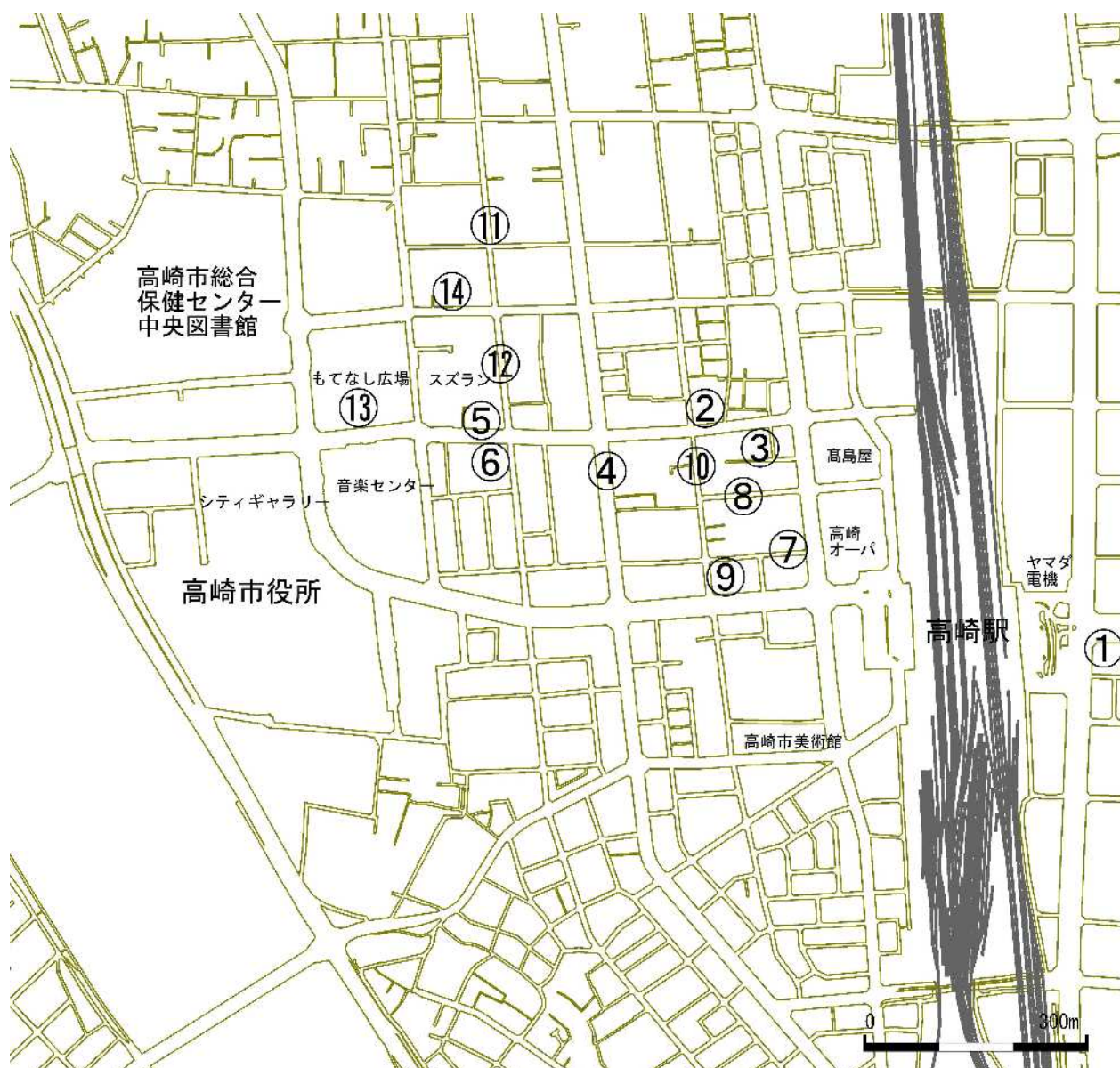
調査地点：中心商店街（13地点）及び高崎駅東口（1地点）の計14地点（調査地点はP.14参照）

調査方法：10時から20時までの10時間の歩行者・自転車通行量を計測

調査日：各年度10月末の休日

調査主体：高崎市

■歩行者・自転車通行量調査（休日）における調査地点



|   |                    |    |             |
|---|--------------------|----|-------------|
| 1 | ホテルサンコー前           | 8  | ホテルニュー赤城前   |
| 2 | プラザホテル南側南          | 9  | ラジオ高崎前      |
| 3 | 安国寺入口前             | 10 | 井上病院前       |
| 4 | チサ前                | 11 | メンズショップいとい前 |
| 5 | 乾小児科内科医院前          | 12 | いんてりあムサシヤ前  |
| 6 | うすい高崎城址校前          | 13 | もてなし広場南側    |
| 7 | タカレイパーク Times 東入口前 | 14 | 鞆町ビル前       |

### ◎目標指標 3 区域内居住人口

将来的に中心市街地の活力を下支えする住民の減少が危惧されることから、まちなか居住の誘導・促進を図る事業の効果として、「区域内居住人口」を目標指標として用います。

#### 【計測方法】

調査方法：中心市街地の区域を構成する町の住民基本台帳人口（外国人を含む）を集計

調査日：各年度3月31日現在

調査主体：高崎市

### ※経済活力の向上を図る目標指標について

第4期基本計画では、引き続き第3期基本計画の方針を継承し、「高崎駅東口における都市集客施設の整備を通じて、市内外からの来訪者を誘引し、高崎駅周辺から中心商店街への回遊性を向上させることで、中心市街地全体の賑わいを創出することが重要である」と位置付けています。そのため、「都市集客施設の利用者数の合計」や「休日の歩行者・自転車通行量」を中心市街地活性化の目標指標として設定します。

なお、第4期基本計画では経済活力の向上に寄与する主要な事業として、以下の事業を含む多様な取り組みを実施していきます。

### ■経済活力の向上に寄与する主な事業

| 事業の区分  | 事業名                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 集客施設整備 | 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（店舗、オフィス、共同住宅、駐車場、公共施設の整備）、パブリックゾーン整備事業                                                                                              |
| 商業環境改善 | 第一種大規模小売店舗立地法特例区域の設定<br>高崎市まちなか商店リニューアル助成事業                                                                                                           |
| ソフト系支援 | 中心市街地商業活性化支援事業（商店街の各種ソフト事業に対する支援）、中央銀座アーケード街活性化事業、高崎商都博覧会 等                                                                                           |
| 回遊促進   | 高崎駅東口ペDESTリアンデッキ整備事業、高松かわまち展望レストハウス整備事業、高崎まちなかオープンカフェ推進事業、高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業、お店ぐるりんタクシー運行事業、高崎はしご酒、ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも、TAKASAKI CITY ROCK FES. 等 |

■戦略目標・基本理念・基本方針に基づく目標設定とその実現のための目標指標、主要事業

【戦略目標】

高崎駅周辺における都市集客施設の整備やイベントの実施を通じて、地域の活性化と賑わいを創出し、その効果を中心市街地全体に波及させる。

【基本理念】

高崎の活力と新しい文化を創造・発信する  
『賑わい・交流・文化都心』

基本方針 1

都市集客施設の整備等による市内外からの来訪者の誘引

基本方針 2

中心市街地における来訪者の回遊促進

基本方針 3

まちなか居住の誘導・促進

目標 1

来訪者で賑わう集客拠点ゾーンの形成

目標 2

市民や来訪者が楽しく回遊できる中心市街地の形成

目標 3

快適・便利なまちなか居住が享受できる中心市街地の形成

目標指標 1

都市集客施設の利用者数の合計値

目標指標 2

歩行者・自転車通行量（休日）

目標指標 3

区域内居住人口

主要事業

- ・高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業
- ・パブリックゾーン整備事業
- ・高崎芸術劇場集客推進事業
- ・国際スポーツイベント等開催支援

等

主要事業

- ・高松かわまち展望レストハウス整備事業
- ・高崎市まちなか商店リニューアル助成事業
- ・お店ぐるりんタクシー運行事業
- ・高崎まちなかオープンカフェ推進事業
- ・中央銀座アーケード街活性化事業

等

主要事業

- ・高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業
- ・宮元町第二地区優良建築物等整備事業
- ・連雀町地区優良建築物等整備事業
- ・高崎市居住誘導策
- ・多機能型住居住宅借上事業
- ・地域活動推進補助事業

等

※主要事業は、各目標指標の達成のみでなく、他の目標指標の達成にも相互に効果をもたらす。

#### (4) 目標値の設定

##### 目標数値

|   | 目標指標                         | 基準値                             | 目標値                              | 関連する各事業 |
|---|------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------|
| 1 | 都市集客施設の<br>利用者数の合計値<br>(人/年) | 1, 285, 839<br>人/年<br>(令和 5 年度) | 1, 474, 000<br>人/年<br>(令和 11 年度) | ③-1     |
| 2 | 歩行者・自転車通行量(休日)<br>(人/日)      | 43, 631<br>人/日<br>(令和 5 年度)     | 44, 400<br>人/日<br>(令和 11 年度)     | ③-2     |
| 3 | 区域内居住人口<br>(人)               | 28, 264<br>人<br>(令和 5 年度)       | 29, 800<br>人<br>(令和 11 年度)       | ③-3     |

##### 目標指標 1 都市集客施設の利用者数の合計値

都市集客施設の利用者数の合計値の令和 11 年度における目標値は、4 期中に完成予定の高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（パブリックゾーン整備事業）と、高崎市東町市民活動センター建替事業による利用者数増加効果を、推計値に加算して設定します。

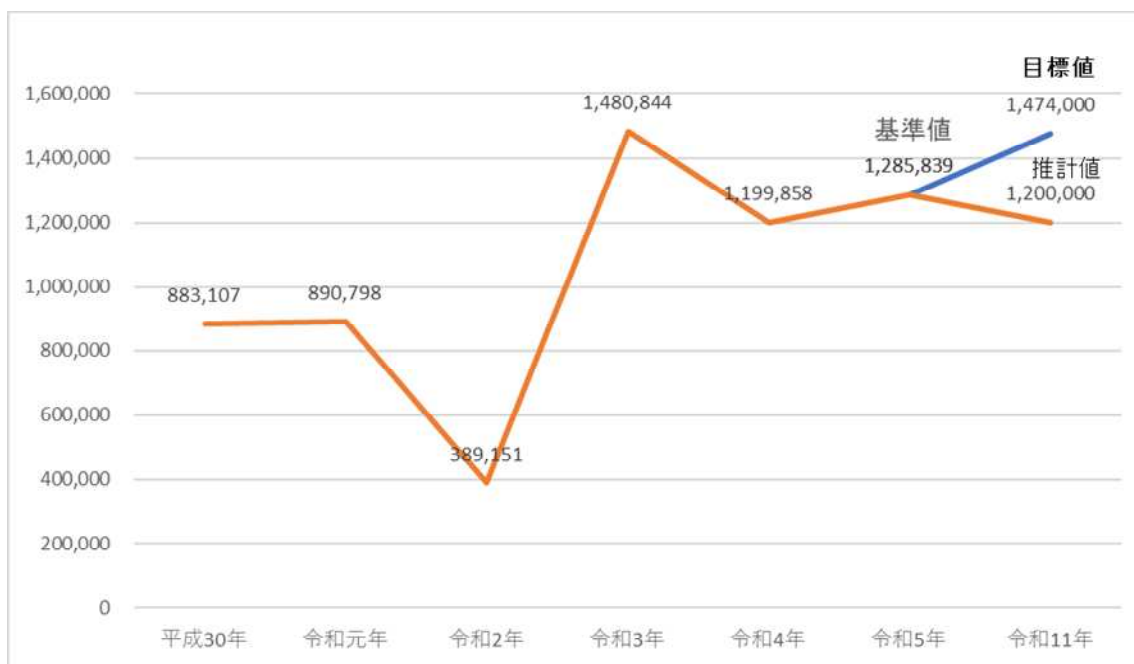
【基準値：令和 5 年度】

1, 285, 839 人/年



【目標値：令和 11 年度】

1, 474, 000 人/年



※令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症のワクチン接種会場として利用があったため、参考値として扱う

① 令和5年度の実績値より ⇒ 基準値を1,285,839人/年とする。

② 目標値の設定に関して、全国的な人口減少や文化的嗜好の多様化により来訪者がやや減少いくことが予想されるが、これまで実施してきた中心市街地活性化事業を継続することで各施設（高崎芸術劇場、高崎アリーナ、Gメッセ群馬など）の利用者推計値を1,200,000人/年とします。この推計値に、③-1の事業効果の利用者数を274,000人/年と見込むことで、最終的な目標値を1,474,000人/年とします。

③-1 関連する各事業効果

i 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業(パブリックゾーン整備事業)による効果

高崎駅東口に建設する再開発ビル内に公民館や子ども図書館、キッズスペース、子育て支援施設等を整備することにより、利用者数を151,000人/年と見込みます。

ii 高崎市東町市民活動センター建替事業による効果

老朽化した既存建物を建替え、勤労者の福利厚生や地域住民のレクリエーション活動等のための会議室、交流スペース等を整備することにより、利用者数を123,000人/年と見込みます。

|                    |   |                  |   |                  |   |                    |
|--------------------|---|------------------|---|------------------|---|--------------------|
| 推計値                |   | i による効果          |   | ii による効果         |   | 目標値                |
| <u>1,200,000 人</u> | + | <u>151,000 人</u> | + | <u>123,000 人</u> | = | <u>1,474,000 人</u> |

④ その他の各事業効果

i 高崎音楽祭による効果

高崎芸術劇場を中心として、群馬音楽センターや高崎シティギャラリー など中心市街地の至るところでクラシックやジャズなど、期間中様々なジャンルの音楽イベントを開催し、施設利用者数増加に寄与する。

ii 企画文化事業による効果

高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客に寄与する。

iii 群馬交響楽団定期演奏会による効果

“音楽のある街 高崎”を代表する群馬交響楽団によるコンサートを高崎芸術劇場で年間10回程度実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客に寄与する。

iv 高崎芸術劇場集客推進事業による効果

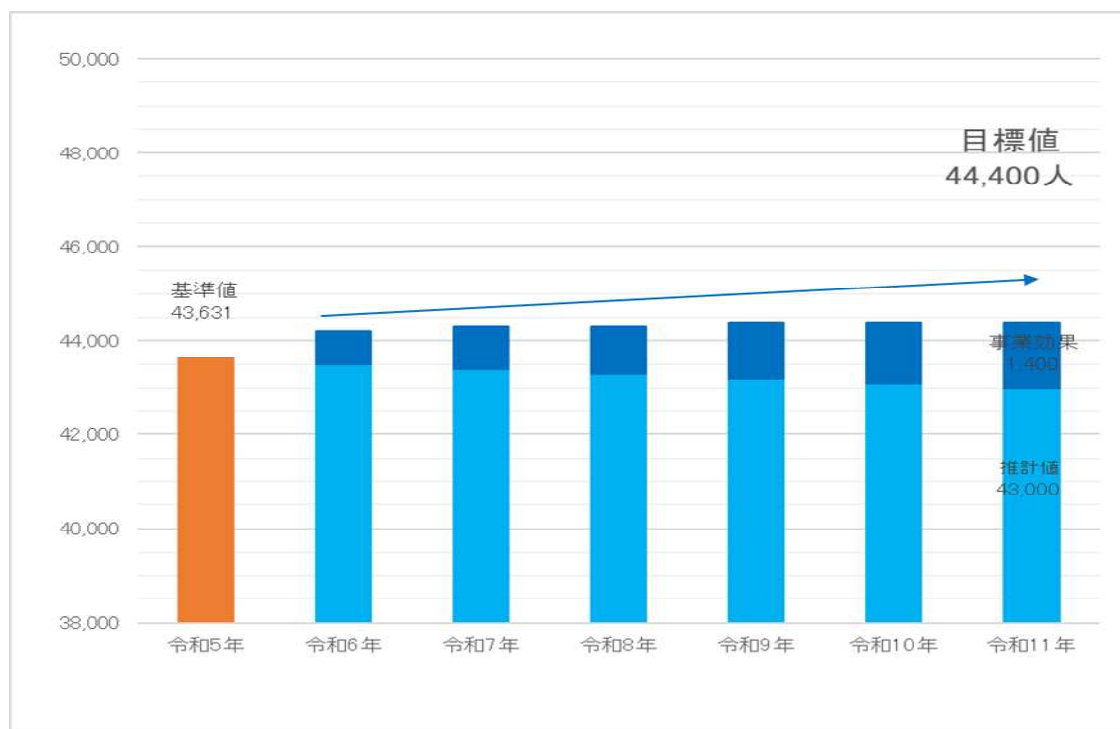
新たな高崎市の都市集客施設として開館した高崎芸術劇場において、行政と民間が連携して様々な事業を開催し、まちなかの賑わいにつなげることに寄与する。

## Ⅴ 国際スポーツイベント等開催支援による効果

高崎アリーナで開催する国際的、全国的規模のスポーツ大会を催すことで、中心市街地における多世帯の市民の来訪や交流に寄与する。

### 目標指標 2 歩行者・自転車通行量（休日）

中心市街地の歩行者・自転車通行量（休日）の令和 11 年度における数値目標は、高松かわまち展望レストハウス整備事業に伴う効果と、高崎市居住誘導策によるマンション建設等に伴う新規住民の増加による効果を、推計値に加算して設定します。



- ① 令和 5 年度の実績値より ⇒ 基準値を 43,631 人/日とする。
- ② 目標値の設定に関して、全国的な人口減少や生活スタイルの多様化により来訪者がやや減少していくことが予想されるが、現状の各事業（お店ぐるりんタクシー運行事業やまちなかコミュニティサイクル推進事業等）を継続した場合の推計値を、**43,000 人/日**とします。この推計値に、③-2 の事業効果を **1,400 人/日**と見込むことで、最終的な目標値を **44,400 人/日**とします。



### ③-2 関連する各事業効果

#### i 高松かわまち展望レストハウス整備事業による効果

高崎産農産物を紹介・即売・飲食できるスペースを備えた展望レストハウスを整備するとともに、イベント開催等により  $100,000 \text{ 人} \div 365 \text{ 日} = 274 \text{ 人/日}$  の増加を見込みます。

#### ii 高崎市居住誘導策による効果

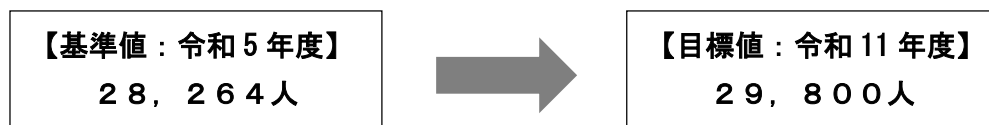
高度利用地区の指定を行うことにより、中心市街地に高層マンションの誘導を図ることから、当該事業による新規住民を中心商店街の買い物対象と設定します。

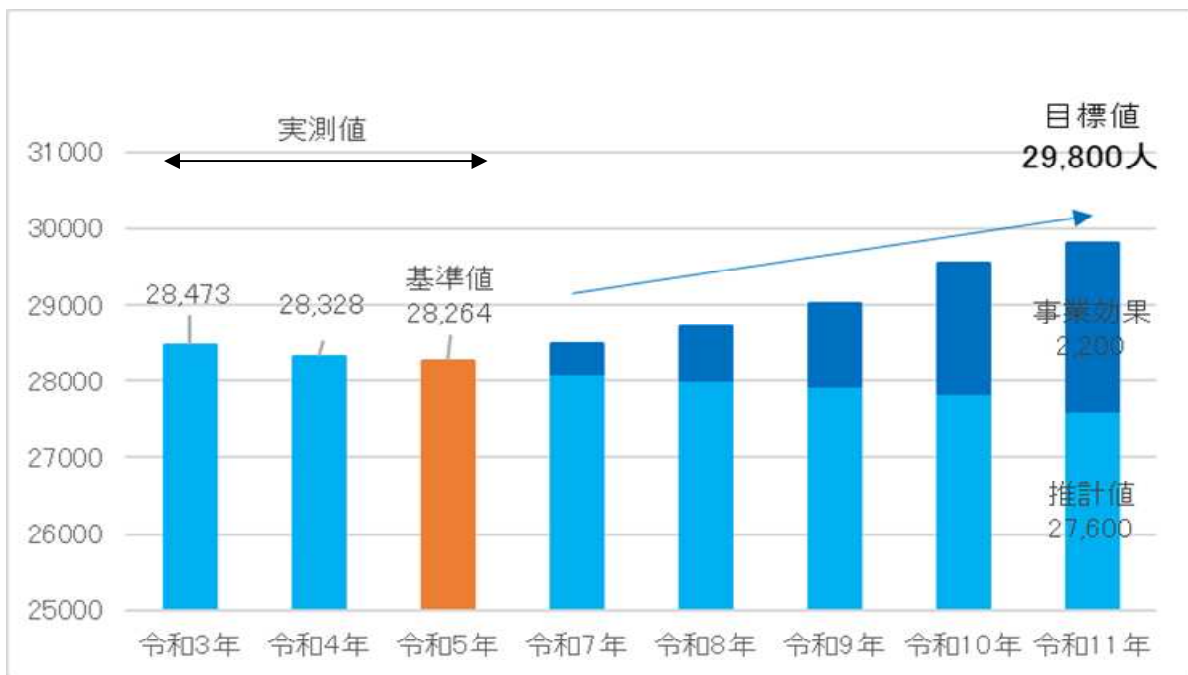
この整備事業などによって新たに  $(568 \text{ 人} + 490 \text{ 人} + 353 \text{ 人} + 823 \text{ 人}) \div 2,200 \text{ 人}$  を想定します（P.21 22 ③-3 i、ii、iii、iv参照）。過去の調査結果から、新規住民の約5割が買い物等で中心市街地を回遊するものとし、 $2,200 \text{ 人/日} \times 0.5 = 1,100 \text{ 人/日}$  を歩行者・自転車通行量として換算します。

| 推計値             | i による効果        | ii による効果         | 目標値               |
|-----------------|----------------|------------------|-------------------|
| <u>43,000 人</u> | <u>+ 274 人</u> | <u>+ 1,100 人</u> | <u>≡ 44,400 人</u> |

### 目標指標3 区域内居住人口

区域内居住人口の数値目標は、高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業や宮元町第二地区優良建築物等整備事業及び連雀町地区優良建築物等整備事業に伴う効果に加え、高崎市居住誘導策による要件緩和で増加することが想定される高層マンション建設に伴う効果を、推計値に加算して設定します。





① 令和5年度の実績値より ⇒ 基準値を28,264人とする。

② 目標値の設定に関して、直近3カ年の推移から現状の約0.5%程度の減少が続くと仮定し、令和11年度の居住人口を年間27,600人と見込み、この数値を推計値とします。さらに、③-3の事業効果の居住人口を年間約2,200人と見込むことで、最終的な目標値を年間29,800人とします。

### ③-3 関連する各事業効果

#### i 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業による効果

高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業の整備によりマンション290戸の供給となり、令和6年3月31日末時点の中心市街地における世帯数(14,438世帯)から1世帯あたりの平均人口を1.96人と算定し、 $290 \text{ 戸} \times 1.96 \text{ 人} = 568 \text{ 人}$ の増加を見込む。

#### ii 宮元町第二地区優良建築物等整備事業による効果

宮元町第二地区優良建築物等整備事業の整備によりマンション250戸の供給となり、令和6年3月31日末時点の中心市街地における世帯数(14,438世帯)から1世帯あたりの平均人口を1.96人と算定し、 $250 \text{ 戸} \times 1.96 \text{ 人} = 490 \text{ 人}$ の増加を見込む。

#### iii 連雀町地区優良建築物等整備事業による効果

連雀町地区優良建築物等整備事業の整備によりマンション180戸の供給となり、令和6年3月31日末時点の中心市街地における世帯数(14,438世帯)から1世帯あたりの平均人口を1.96人と算定し、 $180 \text{ 戸} \times 1.96 \text{ 人} = 353 \text{ 人}$ の増加を見込む。

#### iv 高崎市居住誘導策による効果

高度利用地区の指定を行うことにより、令和元年から令和 5 年までに高層住宅（目安：6 階以上）5 件の共同住宅申請が提出され、平均戸数は約 84 戸となっており、令和 6 年 3 月 31 日末時点の中心市街地における世帯数（14,438 世帯）から 1 世帯あたりの平均人口を 1.96 人と算定し、 $84 \text{ 戸} \times 1.96 \text{ 人} \times 5 \text{ 件} = 823 \text{ 人}$ の増加を見込む。

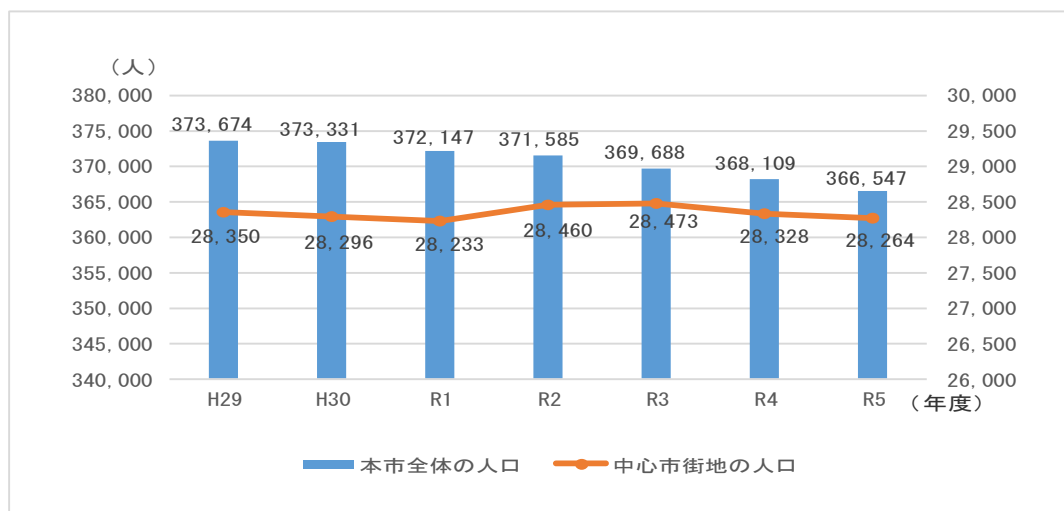
|                 |          |              |           |              |                 |
|-----------------|----------|--------------|-----------|--------------|-----------------|
| 推計値             | i による効果  | ii による効果     | iii による効果 | iv による効果     | 目標値             |
| <b>27,600 人</b> | <b>+</b> | <b>568 人</b> | <b>+</b>  | <b>490 人</b> | <b>+</b>        |
|                 |          | <b>353 人</b> | <b>+</b>  | <b>823 人</b> | <b>≡</b>        |
|                 |          |              |           |              | <b>29,800 人</b> |

##### （1）高崎市及び中心市街地の人口の状況

高崎市全体の人口は、平成 29 年度から減少している状況にあります。中心市街地の人口は、令和元年度から令和 3 年度にかけて増加傾向にありましたが、その後、全体人口同様減少に転じています。

高崎市全体に占める中心市街地の人口の割合は、令和 5 年度に 7.7%となっており、6 年前の平成 29 年度と比較して 0.1%上昇しています。

#### ■高崎市及び中心市街地の人口推移



（資料：住民基本台帳、各年度 3 月 31 日現在）

#### ■人口増減の割合（平成 29 年度～令和 5 年度）

|                 | H29 年度    | R5 年度     | 増減     |
|-----------------|-----------|-----------|--------|
| a. 市全体          | 373,674 人 | 366,547 人 | ▲7,127 |
| b. 中心市街地        | 28,350 人  | 28,264 人  | ▲86    |
| 市全体に占める割合 (b/a) | 7.6%      | 7.7%      | 0.1%   |

（資料：住民基本台帳）

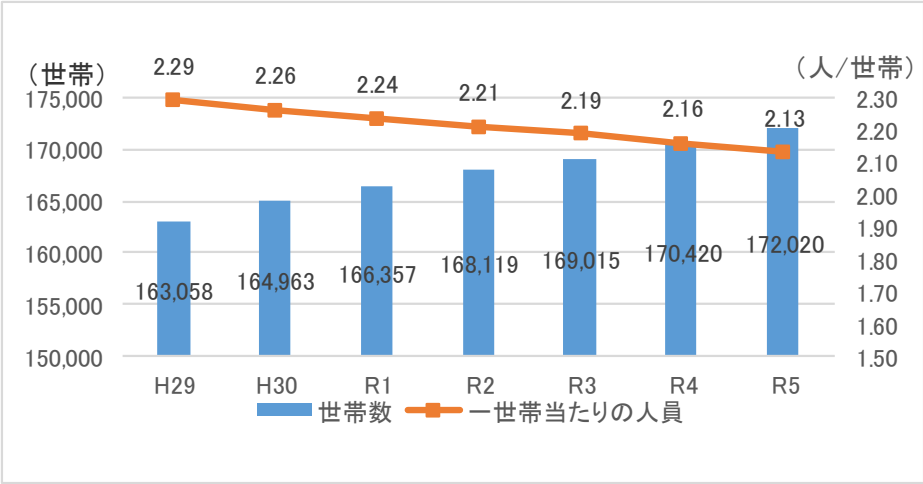
##### （2）高崎市及び中心市街地の世帯数及び一世帯当たりの人員の状況

高崎市及び中心市街地の世帯数はともに増加傾向にあり、高崎市全体に占める中心市街地の世帯数の割合（シェア率）は、令和 5 年度では 8.4%と平成 29 年度と変わら

い数値となっています。

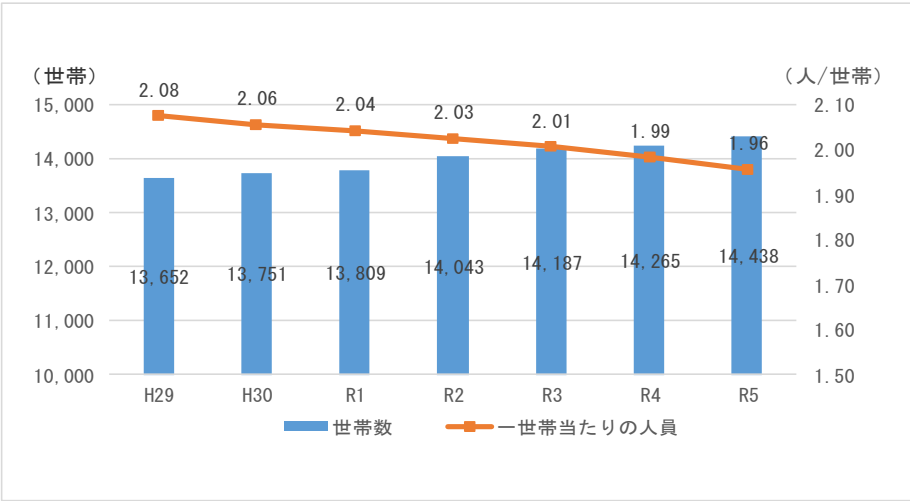
一世帯あたり人員は、高崎市、中心市街地ともに減少傾向にあります。中心市街地は高崎市全体と比較して、一世帯あたりの人員が少なく、令和5年度には1.96人と2人世帯を割っています。

■高崎市の世帯数及び一世帯あたり人員の推移



(資料：住民基本台帳)

■中心市街地の世帯数及び一世帯あたり人員の推移



(資料：住民基本台帳)

■高崎市の世帯数及び一世帯あたり人員の推移

|      |               | H29 年度     | R5 年度      | 増減                |
|------|---------------|------------|------------|-------------------|
| 世帯数  | a. 高崎市        | 163,058 世帯 | 172,020 世帯 | 8,962 世帯(5.5%)    |
|      | b. 中心市街地      | 13,652 世帯  | 14,438 世帯  | 786 世帯(5.6%)      |
|      | c. シェア率 (b/a) | 8.4%       | 8.4%       | 0.0%              |
| 世帯人員 | d. 高崎市        | 2.29 人/世帯  | 2.13 人/世帯  | ▲0.16 人/世帯(▲7.0%) |
|      | e. 中心市街地      | 2.08 人/世帯  | 1.96 人/世帯  | ▲0.12 人/世帯(▲5.8%) |

(資料：住民基本台帳)